

伊東氏館(伊東市物見が丘)(物見塚公園)

伊東氏と伊豆伊東という地名は、平安時代からあった古い地名ですが、その伊東地名と密接につながるのが伊東氏の存在です。

伊東氏は、南家藤原氏の流れを汲む工藤氏の一族であり、藤原鎌足の八代の孫為憲が、木工助となったことから工藤氏をとなえるようになりました。

工藤為憲の子孫は、駿河や伊豆に土着して武士となり各地に広がって行きましたが、伊東に本拠をかまえるようになったのが、伊東祐親(曾我兄弟の祖父)の祖父、伊東氏の初代家次(別名工藤祐隆)であると言われています。

源平争乱の時代には、平家とつながりのあった伊東祐親やその子伊東九郎祐清・河津三郎祐泰(曾我兄弟の父親)、頼朝の側近として活躍した工藤祐経(曾我物語では敵役となった)、宇佐美祐茂らが歴史に名をとどめています。

伊東における、その他の曾我物語関連の伝承地としては、千鶴丸が流れついたとされる富戸海岸の産衣石や、千鶴丸を祭ったとの伝承がある富戸三島神社の相殿の若宮八幡、その手に持っていた橋をさしたものが根づいたとされる橋の木(同神社)などがあげられます。

伊東家の館跡の伝承地の一つである物見塚公園に伊東祐親の銅像があり、そこから300mほど西(台地の外れ)に伝伊東祐親の墓として伊東市指定文化財になっている立派な五輪塔が建っています。そのそばの坂を下れば菩提寺の東林寺にいたります。

「伊豆・伊東観光ガイド」サイトによる

